

当面のスローガン

- 本年こそ「人権侵害救済法」を制定させよう!
- 狭山再審闘争の勝利をかちとろう!
- 続発する差別事件の糾弾を徹底しよう!

解放新聞 和歌山版

発行所
解放新聞和歌山支局
 〒640-8314
 和歌山市神前 405-3
 TEL 073-473-2301
 FAX 073-473-2302
 発行責任者
藤本哲史

解放の父・松本治一郎の意志を受け継ぎ、解放運動にまい進しよう

県連大会

第61期県連大会が6月4日、5日、白浜町ホテルシーモアでひらき、代議員298人が参加した。

司会の松本貞次・副執行委員長から「人間の住む社会に人間として生まれたものが、人間として生きていけない。人間の住む世の中に、人間として生きていくことのできない社会があるとすれば、その社会は大きな矛盾であり、不合理な社会と言わざるを得ない。その矛盾や不合理があるために、水平運動がある。そういつて、部落解放

運動にすべてを尽くして闘ってきた解放の父、松本治一郎は1966年11月22日に亡くなって、今年で50年を迎える。先の上杉佐一郎・前中央執行委員長が亡くなって20年。われわれの先輩が人間として生きていきたい。その思いで多くの先輩が血を流して涙を流して闘ってきた。その思いを振り返るときだと思ってい

「と開会あいさつをした。つづいて、藤本哲史・県連執行委員長は「今大会では、活発な議論をしてほしい。昨年の市町村要請行動では、さまざまな温度差があることがわかった。答申50年をふまえ、あらたな一歩をふみださなければならぬ。昨年の人権フォーラム開催以降、法案提出までこぎつけた。前中澤敏浩・執行委員長の意志を受け継ぎ、運動にまい進しよう」とあいさつがあった。

大会では、2015年度経過報告ならびに2016年度活動方針・予算(案)も可決された。(分散会の詳細は2、3ページを参照)

岡実千年・新宮市長、井潤誠・白浜町長、上山章善・湯浅町長、福田安雄・田辺市副市長、坂口唯之・すみ町副町長、山本彰徳・和歌山市市民環境局長、吉井和視・和歌山県議会議員、山下直也・同県議会議員、溝口耕太郎・白浜町議会議員、松井紀博・和歌山市議会副議長、山本忠相・和歌山市議会議員

府連、兵庫県連、京都府連、奈良県連、広島県連、香川県連



先人の意志を受け継ぎ、解放運動にまい進しようといさつする藤本哲史・執行委員長

部落解放同盟和歌山県連合会 第61回 定期大会

- ◆中央本部
組坂繁之・中央執行委員長
- ◆国会議員
岸本周平・衆議院議員、門博文・同議員、鶴保庸介・参議院議員、福島康行・二階俊博衆議院議員秘書、今西康仁・石田真敏同議員秘書、木野十三・浮島智子同議員秘書、大谷政照・世耕弘成参議院議員秘書、大江康弘・前参議院議員
- ◆行政・議会
下宏・和歌山県副知事、田

- ◆各種団体
小林茂・連合和歌山会長、田上武・部落解放・人権行政確立要求和歌山県実行委員会会長、赤松明秀・同和問題にとりくむ和歌山県宗教教団連絡協議会議長、津村清信・同協議会、安藤康志・和歌山同和問題企業連絡会代表幹事、野口宗宏・自治労和歌山県本部執行委員長、岡本啓亨・和歌山県職員労働組合執行委員長、野淵道彦・(一社)和歌山人権研究所理事長、川合廣征・近畿大学付属新宮高等学校・中学校校長、上田賢司・和歌山商工会議所理事、湯川恭英・和歌山県商工会連合会参与、朴正隆・JIP労組和歌山連絡協議会事務局長

- ◆祝電
二階俊博・衆議院議員、石田真敏・同議員、岸本周平・同議員、門博文・同議員、世耕弘成・参議院議員、鶴保庸介・同議員
- ◆行政・議会
神出政巳・海南市長、平木哲朗・橋本市長、望月良男・有田市長、中村慎司・紀の川市長、中芝正幸・岩出市長、寺本光嘉・紀美野町長、井本泰造・かつらぎ町長、岡本章・九度山町長、平野嘉也・高野町長、上山章善・湯浅町長、西岡利記・広川町長、松本秀司・日高町長、西前哲市・古座川町長、奥田貢・北山村長、田嶋勝正・串本町長
- ◆各種団体
浅井修一郎・和歌山県議会議員、長坂隆司・同県議会議員、吉田克己・田辺市議会議長、榎本鉄也・新宮市議会議長、赤坂岩男・かつらぎ町議会議長、松本典久・湯浅町議会議長、榎原淳奈・広川町議会議長、山本明生・上富田町議会議長

安藤康志・和歌山同和問題企業連絡会代表幹事、裏野勝也・和歌山県平和フォーラム代表、奥田均・一般社団法人部落解放・人権研究所代表理事、谷川雅彦・一般社団法人部落解放・人権研究所所長、松本吉弘・和歌山県隣保館連絡協議会会長 (敬称略・順不同)

頑健

6月、モハメット・アリ(カシマス・クレイ)が亡くなった。ボクシングの元ヘビー級チャンピオンのアリは、私たち世代の青春の時代のヒーローだった。彼の人生は差別と反戦と病気との闘いの連続だった。▼オリンピックで金メダルをとり、アメリカの英雄として凱旋した彼をまっていたのは、黒人差別という現実だった。いきどおった彼は、金メダルを川に投げ捨てた。そして、プロに転向し無敵といわれた相手をKOしてチャンピオンになった。そんなとき、黒人解放運動活動家のマルコムXと出会い、名を「モハメット・アリ」と変え、黒人解放運動に参加していったのである。▼その後「なにも関係のないベトナム人に銃口を向けられない」とベトナム戦争に反対して徴兵を拒否し「資格」「タイトル」などすべてのものを奪われたアリは、アメリカ国家を相手に闘いを挑んだ。▼その後「再起」と「キンシャサの奇跡」、そして「パーキンソン病と闘いの人生がつづいた。晩年、アトランタ・オリンピックの聖火台に立つ彼の姿が今でも強烈に残っている。▼アリには、英国系の血が流れているといわれているが、アメリカの奴隷時代、南部の農園で普通におきていた闇の歴史が推察される。アリは、多くの言葉を残しているが、そのすべてがアリの闘いの人生を語るものだ。(S・I)